

令和6年度 赤穂市立坂越小学校評価報告書

1. 学校教育目標
2. 本年度の学校経営の重点目標

- (1) 基礎基本の定着、対話を通じて学び合う授業による「確かな学力」を育成する。
(2) 人権を大切にする学校づくりを推進する。
(3) 心の教育を全教職員並びに関係機関と連携しながら進める。
(4) 児童・保護者の思いに寄り添い、特別支援教育、児童支援を充実させる。
(5) キャリア教育を充実させ、目標に向かって生きる意欲や態度を育てる。
(6) 家庭と連携して基本的習慣の形成を行い、褒めて育てる教育を推進する。
(7) 健康・体力の増進を図り、防災・安全教育の充実と体制の整備を行う。
(8) 児童・保護者・地域と共に築く、開かれた学校づくりを行う。
(9) 全教職員の共通理解のもと、ウェルビーイングで組織的な教育活動を進める。
(10) 学校業務の工夫・具体的な改善を図り、子どもと向き合う時間を確保する。

3. 自己評価結果 (A～D) (A:達成した80%以上 B:ほぼ達成した 60～80% C:あまり達成できなかった40～60% D:達成できなかった40%以下)

観点(重点目標)	◇評価項目(学校園・教師の取組内容)【別紙参照】 ○評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
(1) 確かな学力と学びの保障	◇各学年の発達段階に応じた学習規律を定着させ、学習形態や、個に応じた指導方法を工夫し、基礎基本の定着に努めている。(複数指導・さこしの日の補充学習・朝学習の活用) ○児童が、読み書き計算などの基礎的基本的な学習について8割以上の習得ができている。(児ア・保ア)→(評価テスト等)	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・朝学習の時間に基礎的な学習の積み重ねを行い、学力の向上をはかる。 ・ICT端末を活用し、自分の意見を他者に発信することで、友達の考えを取り入れながら、自分の考えを持つことができるようにする。
	◇児童一人一人が自分の考えをもち、友達との対話を通して学び合う中で、考えをさらに深められるような授業づくりに努めている。 ○児童が自分の考えをもち、対話により考えを深めている。	職員・児童アンケート		
	◇個別最適な学びと協働的な学びを実現するツールとしてのICT活用を推進し、指導と評価の一体化を図り授業改善につなげている。 ○タブレット端末等のICT機器を、児童の学習内容理解や友達との考えの比較等に適切に役立て、次の授業改善につなげている。	職員アンケート 職員研修		
(2) 人権を大切にする学校づくり	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が、間違いや失敗に対して否定的な反応をせず、自然に対話し、援助し合っている。	職員アンケート 児童アンケート	A	・対話を中心とした学習を道徳や他の教科で行っていくことで、相手を尊重しながら学習が進められるようにする。 ・引き続きスマイル班活動を通して異学年での交流を行い、縦のつながりをもてるようにする。
	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が進んで挨拶をし、委員会活動やスマイル班活動等では学年を越えて友達を大切にしている。	職員・保護者アンケート		
	◇日々の教育活動やたんぼぼ学級の計画・実施等を通して様々な人権問題に関心をもてるように努めている。 ○日々の教育活動の中で、人権に視点を置いた促しや注意喚起、また児童が様々な人権問題に関心をもち、学ぶことができるよう、教職員の共通理解が図られている。	職員アンケート 職員研修		
(3) 心の教育の充実	◇児童の内面に根ざした道徳性を養うために道徳の教材や授業づくりの研究に努めている。 ○児童が進んで挨拶をし、委員会活動やスマイル班活動等では学年を越えて友達を大切にしている。	職員アンケート 児童アンケート	B	・あすなる参観日で道徳の授業を行うことで、児童と保護者が共通の課題について考え、意見を交流できる機会とする。 ・生徒指導委員会を適切に運営し、いじめの未然防止につとめる。また、積極的にいじめを認知し、早期発見、早期解決を行っていく。
	◇生活指導の中で、禁止ではなく励行をうながし、児童の自己指導能力を高めている。 ○生活指導委員会を中心とした取組の中で、児童の自己指導能力を育成し、児童による学校生活のルールづくりをすることで気持ち良く学校生活が過ごせている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
	◇いじめのない安心できる学校生活の推進に努めている。 ○いじめ・不登校の早期発見や早期対応のために、職員間で課題を共通し、必要に応じて外部機関とも連携し、すべての児童の心の居場所を保障している。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
(4) 特別支援教育の充実	◇個別の指導計画や個別的教育支援計画を作成し、支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発と共通理解を図っている。 ○合理的配慮の観点を踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送れている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り	B	・特別な支援を要する児童の情報を職員間で共有し、学校全体で関われるようにする。 ・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとも連携し、専門的な知見を取り入れながら、適切な支援を行えるようにする。
	◇すべての児童が集中して、学習に取り組むことのできる環境づくりや、視覚的に分かりやすい支援を心がけている。 ○日々の授業や生活の中で、掲示物の精選を行い、必要な情報の視覚支援などを取り入れて、授業のユニバーサルデザイン化を図っている。	職員アンケート 職員研修		

総合的な学校園関係者評価

・学校の授業や行事の運営については、いろいろ検討され、適切に行なわれていると思われる。地域の行事には保護者も忙しく先生生活方もワークライフバランスのため未参加となり、清掃活動など親子参加が少なくなっている。(地域の声が届きにくく保護者の価値観に任せる方向になっている)保護者の考え方・意見も様々なようであるが、それらを集約して子どもたちの成長に向けて最善の方向への展開を願っている。
・坂越小学校の運営や教員の意識、児童の様子も課題はあれど、本当に良い雰囲気だと思う。学校の先生は良くも悪くも「頼まれたら断りにくい」「例年のやり方を直す余裕がない」傾向があるので、こういった評価も含めて、先生方の負担が膨らみ続けられないか心配であると同時に、本当に頭が下がる。家庭や地域で行なわれてきたことが学校への要望として挙がってきているようにも感じる。家庭でできることは家庭で、地域でできることは地域で、児童が学校にいる時のことは学校が、しっかりと線引きをしても良いと思う。教職員と子ども達の「心の健康」を最優先にしていっていただきたい。
・先生方については、日々子供たちと教育に対して真摯に向き合っておられるように感じられ、いつも尊敬と感謝の気持ちでいっぱいである。ただ家庭との連携、開かれた教育の部分では、まだ向上の余地があるようにも感じられる。また、温暖化の影響で非常に子供たちの体調管理が難しい時代ではあるが、後手に回らず、積極的に体力向上に取り組んでいただきたい。
・日々の業務だけでも大変なのに、少しでも子供のために良い方向に向かうために動いて下さっており感謝している。ここ最近のタブレット学習やテトルの活用で、以前よりも、より学校での様子を知ることができ、親からしても嬉しい。
・小学校生活は心と身体の養育と社会ルールを守るなどを身につける場として、教職員の皆さんがストレスを感じないよう、時間をかけて児童を見守っていただきたい。

学校関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない×適切でない

自己評価は適切か	改善方法は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	○	タブレット学習で自分の作品を友達に評価してもらえてとても喜んでた。親も家で作品を見たり、友達からコメントも見られてうれしかった。 学力の向上を数値化することはとても難しいことと思うが、のびのびと学習して欲しい。 「ICTの活用」が目的とならないように気をつけてほしい。
◎	◎	異学年との交流は坂越小はすごく行っていただけにいると思うので、引き続き行っていたきたい。 あまり「人権教育」を意識しすぎると逆効果になることも懸念される。
◎	◎	冗談やふざけたりしている中の言葉でも傷つく子がいたりするのも事実なので、その辺も指導していただきたい。 大変重要かつデリケートな問題であると思うが、後手に回らず、積極的にいじめを認知し、介入していくことがよい。ナイーブな部分なので大変だと思うが、教職員自身が心の余裕を持てたらいいと思う。
○	◎	特別支援の児童のお母さん方からとてもよくしてもらっており助かっていると聞いたことがあるので、これからそのままの体制でお願いしたい。 教職員の人員不足で児童との関わりに不安を感じる。特別な支援にはどうしても人手や教室が必要になってくるが、それが教職員や児童全体への圧迫にならないことを願う。

(5)キャリア教育の充実	◇「地域の本物」に出会い生き方を学ぶ体験、係や委員会、縦割り活動等で自分の役割を果たす体験等、キャリアを見据えた体験活動の充実を図っている。	職員アンケート 保護者アンケート	B	・坂越地区の地域資源を学習に活用することで、自分が生活する地域やそこで働く人々について知り、自分のキャリアを考える土台とする。 ・運動会や音楽会などの行事を通して、目標を立て、やり抜く経験を積み重ねていく。	○	◎	友達や地域と充分楽しく繋がれていると感じる。
	○人との出会いや、自分の役割を果たすことによって得た喜び等を、自分の目標や将来の夢の実現に生かすことができる。						
	◇「地域の本物」に出会い生き方を学ぶ体験、係や委員会、縦割り活動等で自分の役割を果たす体験等、キャリアを見据えた体験活動の充実を図っている。	職員アンケート 保護者アンケート					
(6)家庭との連携	◇児童の学習や読書の習慣、「早寝・早起き・朝ごはん運動」や健康管理、挨拶の励行などの基本的生活習慣の定着を目指し、家庭と連携して、教育活動を行っている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・次年度も年度当初に学級経営説明会を行い、保護者に学級経営方針をより明確に伝えられるようにする。 ・各種お便り等(学年通信・校長だより・保健だより)を通して、保護者に学校での様子を伝えていく。	○	○	テトルになってからプリントを出し忘れ等で見落とすことがなくなって助かっている。 説明会等では、出席率が低いなどの課題が残ってしまう。他にも家庭を舞い込む策を考えたいところ。便りや通信は良いと思う。 家庭に向けての働きかけは、学校からの発信は既に限界(充分頑張ってくれている)と思う。
	○保健や食育だより、学習や読書、挨拶習慣をつけるための情報発信、講演会への招待等により家庭の意識を高め、よりより生活習慣の定着が図られている。						
	◇連絡帳や通信、メールシステムなどを通じて、児童の課題も善行も共有し、家庭と連携して教育活動を行っている	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
(7)健康と安全を守る 取組の充実	◇毎月の生活目標をもとに、新しい生活様式を踏まえ、安全に留意しながら生活指導を行っている。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・養護教諭を中心として、健康に関する指導を年間通して行っていく。 ・校内での事故やケガの防止のため、校舎内や運動場、遊具等の安全点検を引き続き丁寧に行っていく。	◎	◎	怪我をした際、保健室でしっかり手当していただいているようでありがたい。 子供の頃の運動習慣がその後の人生における健康状態に密接に関係することがわかっている。今後も体力向上については、熱中症などを気にするあまり後手後手になるのではなく、積極的に取り組んでいただきたい。(家庭でもしっかり)
	○児童が毎月の生活目標を意識して、学校生活を送り、終わりの会や月末の振り返りの際に8割以上の達成率を実感することができる。						
	◇児童の体力向上のため、体育や学校行事、特別活動や学級の全員遊び等、工夫して教育活動を行っている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
	○児童が体力の向上を目指して、マラソンやなわとび、器械運動の練習を進んで行ったり、休み時間に元氣いっぱい外で遊んだりしている。						
	◇施設設備の整備や安全点検や危険箇所の営繕補強、学校から保護者への緊急時に向けた未然対応に努めている。	職員アンケート 保護者アンケート					
(8)信頼される開かれた 学校づくり	◇学校だよりや学校HP、参観日オープンスクール等を通じ地域への情報発信に努めている。	職員アンケート 保護者アンケート	B	・生活科や総合学習で坂越の地域について学び、児童と地域の接点をつくる。 ・学校だよりや学校ホームページ等で学校の教育活動を広く知ってもらえるように取り組んでいく。	○	○	学校便りなどは非常に良いと思うが、反面、画質が汚すぎると評価せざるを得ない。それにより全て台無しになっている。大変楽しみにしながらも毎回がっかりしている。カラープリントの充実を。伝わるも伝わらなくなる。
	○学校の教育活動が保護者や地域に広く紹介されている。						
	◇地域の自然、文化、歴史、人、もの、ことと関わる体験や学びを大切に、地と連携し、教育活動を行っている。	職員アンケート					
	○生活科や総合学習の中で、地域について知る学習や郷土のよさを生かした体験活動及びゲストティーチャーによる指導により、ふるさと意識の醸成が行われている。						
	◇学校運営協議会制度(コミュニティスクール)や地域の協力を得ながら学校運営が行われている。	職員アンケート 職員研修					
(9)組織としての学校運営	◇学校教育目標の具現化をめざし、必要な報告・連絡・相談を適切に行い他の職員と協働して組織的に教育活動を行っている。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・適宜、職員研修を行っていくことで、学校全体として教師の資質向上に努める。 ・職員会議や職員集会で各取り組みについての内容を把握し、同一歩調で学校運営に関われるようにする。	◎	◎	このあたりに注力しすぎて、教職員が知らず知らずのうちに負担に感じていないか心配である。
	○職員集会や会議の場で、各状況を報告し合い、職員が指示事項を共通理解し、全教職員で全児童に関わる体制づくりがなされている。						
	◇児童の学びに寄り添う授業研究や教職員の資質向上や専門性を高めるための研修を行っている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
(10)子どもと向き合う 時間の確保	◇校務の精選、定時退勤日の励行による勤務時間の適正化や教育課程の工夫などによって、児童に向き合える時間を確保するよう努めている。	職員アンケート	B	・子供と向き合う時間を確保するため、時間を捻出できるよう、時程や各取り組みの内容を精選し、改善をしていく。 ・教職員の心身の健康を保つため、何でも言い合える風通しのよい職場風土を作るようにする。	○	○	子供と向き合う時間やプライベートな時間を捻出するのではなく、時間の余裕を確保しやすいよう、業務削減や見直しを中心にされた方が良いと思う。先生方は頑張りがすぎだと思う。
	○定時退勤日の完全実施により、ワークライフバランスを心がけ心身のケアに努めている。						